

《実践報告》

「大学生が取り組む『高校生のキャリア形成授業』実践」

田中 一裕 (新潟大学)

新潟大学創生学部3年次に実施されるプロジェクトゼミにおいて本研究室では「大学生のキャリア形成」を目的とするプロジェクトとして、これまで県職員・民間企業職員・国際交流員など多様な社会人を交えて「大学生が大学でどのようなキャリア形成をおこなうべきか」について、大学生との議論の中から明らかにしていく試みを実施している。本実践では、大学生が「高校生のキャリア形成」をおこなうための授業開発、実施、振り返りの中で自らのキャリア形成を振り返り、これからのキャリア形成の在り方を考察させることを目的にプロジェクトを実施し、この実践の分析から、新潟大学創生学部における大学生のキャリア形成の内容・方法などの在り方について分析、考察をおこなう。

キーワード：キャリア形成 初年次教育 動機づけ

1. はじめに

新潟大学創生学部3年次のプロジェクトゼミでは、全学生がゼミに配属され、各自のテーマにもとづき研究を開始する。他学部のゼミと比較して創生学部のプロジェクトゼミが特徴的な点は、学生が自由に分野を越えた研究テーマを設定することが可能となっている点である。プロジェクトゼミ担当教員の専門性と離れたテーマを設定する学生も多く、他学部や外部の専門家と連携した研究をおこなう場合もある。またもう一つの特徴として、プロジェクトゼミ担当教員が設定した多様なプロジェクトにゼミ生を関わらせ、研究を実施する点にある。

本実践では、プロジェクトゼミにおける「高校生のキャリア形成を目的とした授業」における参加学生の様子、事前・事後のキャリア形成に対する認識の変化を分析することにより、大学生のキャリア形成に求められている「自分自身のキャリア形成の振り返り」が、今後のキャリア形成に与える影響について考察する。

2. 新潟県立正徳館高校での「キャリア形成授業」

新潟県立正徳館高校は、長岡市(旧与板町)に位置する1学年1クラスの県内でも最小規模の高校である。大学などへの進学者は少なく、多くの生徒が専門学校や就職などの進路を選択している。今年度正徳館高校より依頼があり、3年生の進路探究学習を実施することになった。実施にあたり、プロジェクトゼミでの話し合いを進め、以下のグループワークなどを実施することに決定し、ゼミの研修合宿などで詳細を決定し、

9月に実施することになった。具体的な当日の流れは以下の通りである。

4限目 12:40~13:35 事前に、4グループに分かれて着席
①学生自己紹介
②アイスブレイク(グループ内で実施)
③My Picture-story show (人生紙芝居) 4グループに分かれた生徒のところを大学生が回って、実施する ラウンド1(7分)、ラウンド2(7分)、 ラウンド3(7分)、ラウンド4(7分)
5限目 13:45~14:40 各グループの中で、ワークシートにもとづき作業や発表をおこなう
① ワークシート1 (人生テンショングラフ) 生徒各自の記入:10分(学生がアドバイス) →グループ内で発表:5分
② ワークシート2 生徒各自の記入:10分(学生がアドバイス) →グループ内で発表:5分
③ ワークシート3 生徒各自の記入:10分(学生がアドバイス) →グループ内で発表:5分
④ 振り返りシート:5分

授業は2019年5月27日12:40~14:40(4限・5限)の時間帯に、グループワークに適した格技場で実施した。キャリア形成授業の具体的なグループワークの内容は以下のものである。

① My Picture-story show (人生紙芝居)

大学生の自己紹介、アイスブレイクに続き、大学生

が事前に準備した大学生自身の人生を振り返る My Picture-story show (人生紙芝居) を見てもらった。My Picture-story show (人生紙芝居) の内容は、それぞれの大学生が自らの体験を示したストーリーとなっており、小学校・中学校・高等学校で熱中したことや思い出、当時の気持ちなどを4枚の厚紙に記入したものである。1グループ7分で大学生がグループになった高校生のところへ移動しながら、合計4回の発表をおこなった。(Figure 1. 2. My Picture-story show (人生紙芝居) の例)



Figure1. My Picture-story show (人生紙芝居) の例



Figure 2. キャリア形成授業 My Picture-story show (人生紙芝居)

① 人生テンショングラフ

以前、人生アップダウングラフという形でこの内容に近いシートを応用していたが、担当学生の作成の際に、「高校生にとってあまりマイナスな出来事を書いてもらうより、これまで良かったことだけを抜き出して、今後のキャリア形成につなげた方が効果的ではないか」という意見にもとづき、これまではマイナスの領域があったグラフを、0 からプラスの部分のみのグラフへと改良したグラフを利用し、グループワークを実施した。(Figure 3. 4. 人生テンショングラフ)



Figure 3. 人生テンショングラフ



Figure4. 人生テンショングラフ

② やりたいこと発見シート

次のグループワークでは、高校生自身の興味・関心について考察させることを目的に「やりたいこと発見シート」に記入させ、グループ内で発表をおこなった。このシートの作成では担当学生が、「興味ある仕事」についてイメージを増やしていく方法に改良した。(Figure 5. 6. やりたいこと発見シート)

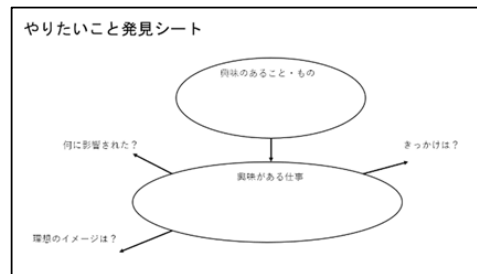


Figure 5. やりたいこと発見シート



Figure 6. やりたいこと発見シート

③ 社会人2年目の私 イメージシート

次のグループワークとして、高校生自身が「社会人2年目の私」が仕事に対して「どのような姿勢で向かっているのか」、また「社会人としてのメンタル的どのような気持ちを持っているのか」、また「プライベートではどのようなことに時間やお金を使っているのか」などを予想させることを目的として、4分割されたワークシートに、それぞれの項目を記入させ、グループ内で発表をおこなった。ワークシート作成担当学生が、実質的な仕事・生活に加えてプライベート・メンタル面についての予想をさせることにより、仕事だけの未来ではない部分を予想させることとした。(Figure 7. 8. 社会人2年目の私イメージシート)

社会人2年目の私 イメージシート		実家暮らし？ひとり暮らし？	
やりたい仕事をしている？		どんな食事をしている？	
職場の人とうまくやっている？			
	仕事	生活	
	プライベート	メンタル	
お金の使い道は？		社会人になった時のまもちは？	
休日はなにしている？		仕事のモチベーションはどこから？	

Figure 7. ③ 社会人2年目の私 イメージシート



Figure 8. 社会人2年目の私 イメージシート

3. 大学生のキャリア形成授業実施前後 プレ・ポスト調査・面談より

授業実施前後において学生に対して、以下の質問項目についてプレ・ポスト調査・面談をおこなった。

① プレ調査について

(1) 実施する前の予想

参加大学生はこれまで高校生に対して授業をおこなった体験がないため、「授業開発をおこなう際、作成したワークシートに対しての反応を予想することが難しい」、「高校生と話をするなど接することに難しさを感じた」という感想を挙げた。

(2) 苦労した点

① My Picture-story Show (人生紙芝居) 作成においては、「自分自身の体験が、高校生に対してどのような影響を与えるのか、与えないのか、不安を感じる」、「分かりやすく伝える苦労」という感想を挙げた。

② ポスト調査について

(1) 実施後の感想

4名とも、「楽しくできた」「やや楽しくできた」と回答しており、「自分の体験に興味をもってもらえた」、「自分自身が自分の体験を振り返る機会となったと感じた」、「高校生がこの授業を通して自分の将来や進路を考える機会となった」などの感想を挙げている。

(2) このプロジェクトを通して学んだところ

「自分のつらい体験が、高校生にとって何かの参考になることを気づいた」、「キャリア形成のための授業、ワークシート作りの難しさ」、「将来の目標や夢などを持ち進んでいる高校生に気がついた」など体験を高校生に話することで、自分自身の高校生から大学生に進んだキャリアに対する有意義な振り返りとなった。

(3) 今後大学生自身がキャリア形成について取り組みたいところ

「自分の取り組みを振り返りながら、少しでも進む方向性を見いだした」などの感想が多くあった。

4. 考察—大学生のキャリア形成について—

今回の大学生が高校生のキャリア形成のための授業構成、実施、振り返りを通して、第三者のキャリア形成のために多様なグループワークやワークシートを作成・実施する体験をおこなうことで、大学生自身のこれまでのキャリアを振り返る良い機会になったと言える。学生の振り返りより、「高校生に自分の不登校の話

をすることで、自分と同じ経験をしている高校生の少しでも希望になればと思い、話をした」と述べており、またその原因として「東北震災直後の精神的な不安定な状態や、サボり癖・逃げ癖がついてしまったこと」と、自分自身の体験を客観的に捉え、心理的な状況を自己分析することが可能となったと言える。他者へ自分の体験を伝えることを目的としたこの授業が、伝える内容について自分の体験をメタ認知する作業となり、マイナスの感情や経験を、前向きに捉えられるようになったことがポスト調査より明らかになった。

今後はさらに大学生自身のキャリア形成のためのプロジェクトを継続していきたい。

参考資料（A～Dは参加大学生を示す）

「プレ調査」

1. 高校生のキャリア形成という授業を実施することに対する予想

選択肢 ①楽しみだ、②やや楽しみだ A・D、③やや不安だ B・C、④不安だ、

②「やや楽しみだ」選択学生：A「自分より年下の人たちと話すことに慣れていない、また、自分自身の話が高校生にとって役に立つとは思えなかったため」、D「自分自身、高校時代に将来のことをあまり考えていなかったの、生徒たちも将来について考えていない人が多いのではないかと思っていましたから」

③「やや不安だ」選択学生：B「高校生との交流はあまりできないため、いい経験になると思った」、C「高校生と話せるのは楽しみだが、緊張したため」

2. 高校生のキャリア形成のための授業を作成で苦労した点は？

①My Picture-story Show（人生紙芝居）について：A「高校生は、人生紙芝居を見たあと3つのワークシートに取り組む予定であったため、人生チャートを中心に構成を考えたが、なにぶん昔のことについて忘れていたことが多く、また良い思い出はなかったため、思い出すことに苦労した」、B「興味を持ってもらえるように、なるべく面白い内容を目指した」、C「どの場面を取り上げれば高校生が興味をもってくれるか、わからなかった点」、D「生徒がイメージしやすいような内容にするのが難しかった。自分の人生はあまり参考にならないのではないかと不安だった」

②その他の内容について、苦労したところ：A「他のゼミ学生となかなか日時や足並みが揃わず、準備がギリギリになってしまった」、B「テンショングラフは、マイナス面ではなくプラス面に目を向けてもらえるように作成した」、C「高校生が書きやすい書式を考える点」、D「事前の打ち合わせがあまりなかったのが不安だった」

「ポスト調査」

1. 高校生のキャリア形成のための授業を実施の感想は？

①My Picture-story Show（人生紙芝居）について：A「興味をもって聞いてくれたため嬉しかった。その後の感想のなかで、短いながらドキッとさせられる感想が多く、物事を吸収する力がすごいなと感じた。また生徒自身の進路に対する考え方を知ることができて、自分の考え方を見つめ直すことができた」、B「自分の今までを文字と絵にして語ることははじめての経験だったため、新鮮な感じでなかなか面白かった。また、自分自身を振り返る良い機会にもなったと感じる」、D「自分の小学校時代の出来事などを話すのが少し恥ずかしかったが反応してくれる生徒がいたので良かった」

②その他の内容について：A「高校生と実際に話すときに、積極的な生徒から最後までおとなしい生徒まで様々な生徒がひとつのグループにいたため、話しかける相手が片寄らないように気をつけた」、B「人生チャートは、なかなか書けない人と、すぐ書き終わった人がいた。なかなか書けない人は、比較的面白くなさそうに取り組んでいて、すぐ書き終わった人は楽しそうに取り組んでいたのが印象的だった」、C「楽しかったが、少し人見知りをしてしまった」、D「全体的な授業の流れとしてはうまくいったのではないかなと思う」

3. あなたがこのプロジェクトを通して学んだ点は？

A ①自分にとって悲観的なことでも、他人にとっては教訓や参考になることがあるということ、②高校卒業から大学進学という進路が全てではないこと、③人前で何かを伝えることの難しさ

B ①辛い過去は意外と笑い話にできる、②将来のこときちんと考えている生徒の方が生き生きしている、③世に出回っているキャリア形成のワークシートみたいなのは、意外とよくできているし、それをつくるのは意外と難しい。

C ①事前準備の大切さ、②5分程度で物語を構成する方法、③高校生の素直なまじめさ

D ①自分の将来や就きたい職業について早いうちに考えておく方がよい、②自分が将来何をやりたいのかが自分でもわかっていない人もいる、③高校生はキャリア形成について外部からの働きかけがあれば考えられるが、自分ですでに将来の道筋を考えている人は少ない

6. 今後あなたが、キャリア形成について取り組んでみたいと考えていることは？

A「就職活動については情報が少ないので情報収集や周りの学生に色々な意見を聴くこと。自分の好きなこと、出来ること、これだけは譲れないということを明確にする」、B「キャリアは形成しようと思って形成できるのか。目の前の仕事に取り組んで気づいたら形成できていたパターンもあるのではないかな」、C「0G/0Bの人が今頃何をしていたか、聞いてみたい」、D「大学生のキャリア形成について難しい点」